



インパクト  
コンソーシアム

# 第 5 回運営委員会 資料

2025年3月6日

事務局

# 次第

---

## 1. 開会

## 2. 事務局説明 【5分】

## 3. 分科会における議論（中間報告） 【各分科会10分（計40分）】

## 4. 意見交換① 【45分】

## 5. 第1回アドバイザー委員会・グローバルアドバイザーパネル等における議論

◆ 安間 匡明      アドバイザー委員会委員長 【10分】

◆ 中村 将人      グローバルアドバイザーパネル企画座長 【10分】

◆ 事務局説明 【5分】

## 6. インパクトコンソーシアムのTheory of Changeを考える会長主宰研究会における議論等

◆ 水口 剛      インパクトコンソーシアム会長 【15分】

## 7. 意見交換② 【45分】

## 8. 閉会

## 1. 開会

## 2. 事務局説明

【5分】

## 3. 分科会における議論（中間報告）

【各分科会10分（計40分）】

## 4. 意見交換①

【45分】

## 5. 第1回アドバイザリー委員会・グローバルアドバイザリーパネル等における議論

◆ 安間 匡明 アドバイザリー委員会委員長

【10分】

◆ 中村 将人 グローバルアドバイザリーパネル企画座長

【10分】

◆ 事務局説明

【5分】

## 6. インパクトコンソーシアムのTheory of Changeを考える会長主宰研究会における議論等

◆ 水口 剛 インパクトコンソーシアム会長

【15分】

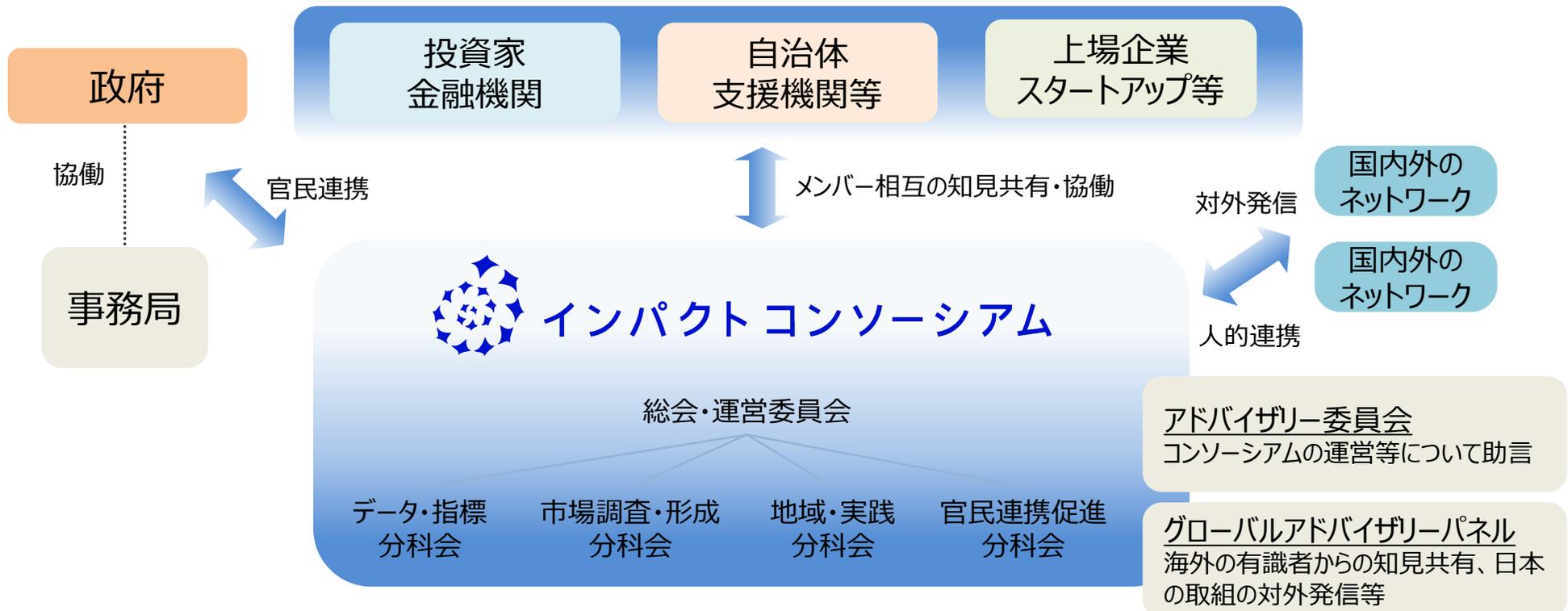
## 7. 意見交換②

【45分】

## 8. 閉会

# インパクトコンソーシアムについて

- インパクト実現を図る経済・金融の多様な取組みを支援し、インパクトの創出を図る投融資を有力な手法・市場として確立し、事業を推進していくため、投資家・金融機関、企業、NPO、自治体等の幅広い関係者が協働・対話を図る場として、23年11月、官民連携の「インパクトコンソーシアム」を設置（24年12月末で計395法人等が参画）。
- 運営については、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、参加者の自主的な課題設定・議論を旨とし、投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項に係る議論を行う。また、必要に応じ、政策発信を含む対外メッセージの発信等を検討していく。
- 各分科会において、投資時に活用できる指標・データの整備、投資手法やインパクト評価を企業価値向上につなげる企業戦略のあり方、地域における官民連携の促進やインパクトを考慮した事業評価の視点等について、市場関係者の多様性と自主性に留意しつつ、議論を積み上げる。



# インパクトコンソーシアムの今後のスケジュール

- 第6回運営委員会において、分科会における議論の最終報告及びインパクトコンソーシアムの今後の運営、総会における議案等について議論予定。
- 第2回総会は書面またはオンライン開催を予定。このほか、分科会の成果物等に関する説明会を予定。

		2024										2025					
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
総会		第1回														第2回	
運営委員会		第2回 第3回	第4回										第5回	第6回 6/13			
アドバイザー 委員会		第1回															
グローバルアド バイザーパネル		第1回															
分 科 会	データ ・指標	第1回					DM会① 第2回		DM会②		DM会③		第3回				
	市場調査 ・形成	第1回					第2回		第3回		第4回		第5回				
	地域 ・実践	第1回					第2回		第3回		フィールド ワーク①		第4回		フィールド ワーク②		
	官民連携 促進	第1回					第2回					第3回					

※今後変更の可能性あり。

### 意見交換①：分科会における議論について

- 分科会の今後の議論や成果物について、どのようなことを期待するか。

### 意見交換②：インパクトコンソーシアムの今後の運営について

- インパクトコンソーシアムの今後の運営のあり方について、どのように考えるか。  
特に、運営委員会や分科会、その他の会議体において議論すべきと考えられるテーマ・論点について、どのように考えるか。

## 1. 開会

## 2. 事務局説明

【5分】

## 3. 分科会における議論（中間報告）

【各分科会10分（計40分）】

## 4. 意見交換①

【45分】

## 5. 第1回アドバイザリー委員会・グローバルアドバイザリーパネル等における議論

◆ 安間 匡明 アドバイザリー委員会委員長

【10分】

◆ 中村 将人 グローバルアドバイザリーパネル企画座長

【10分】

◆ 事務局説明

【5分】

## 6. インパクトコンソーシアムのTheory of Changeを考える会長主宰研究会における議論等

◆ 水口 剛 インパクトコンソーシアム会長

【15分】

## 7. 意見交換②

【45分】

## 8. 閉会

# インパクトコンソーシアム 各分科会における議論

## 1. データ・指標分科会

テーマ：インパクト企業及び投資家がインパクトの測定・管理に活用できる実践的なデータ・指標の整備のあり方

### 〔主な論点・成果物の方向性〕

- ・ インパクトの測定・管理に活用可能な[国内外の指標一覧・データベースの整理](#)
- ・ インパクト創出を意図する企業・投資家において[関心の高い課題分野の特定](#)（※）、当該分野に係るデータ・指標の整備に向けた[課題の整理](#)  
（※）気候変動・生物多様性、健康・医療、インフラ整備・都市開発
- ・ データ・指標を効率的に参照し得る[データベースのコンセプトペーパー](#)

## 2. 市場調査・形成分科会

テーマ：特に投資実務が定まっていない上場企業へのインパクト投資手法のあり方

### 〔主な論点・成果物の方向性〕

- ・ [インパクト及びインパクト投資の定義・考え方、インパクトに取り組む意義・メリット](#)の再整理
- ・ 上場企業へのインパクト投資に係る[課題へのアプローチの整理](#)
  - [多角的に事業を営む場合のインパクト](#)の特定・測定・管理
  - インパクトの[開示](#)、企業と投資家間の[対話](#)
  - [アセットオーナーによるインパクト投資](#)

## 3. 地域・実践分科会

テーマ：地域のインパクト企業・金融機関等のケーススタディやフィールドワークを通じた、地域におけるインパクト投資の機運醸成・裾野拡大のあり方

### 〔主な論点・成果物の方向性〕

- ・ 地域内外の幅広い関係者間での[共通理解を得る方法論](#)や、[インパクトを事業評価に加味する視点](#)等の整理
- ・ 地域における[取組事例集](#)

## 4. 官民連携促進分科会

テーマ：地方自治体とインパクトスタートアップの連携による社会課題の解決の促進に向けた課題の構造化や課題解決の方向性と手法の検討

### 〔主な論点・成果物の方向性〕

- ・ 地方行政におけるインパクトスタートアップのソリューションの活用に向けた[官民連携のノウハウ・事例等の情報を集約](#)
- ・ [今後の事例創出に繋げる](#)ことを目指して、[官民連携に資するノウハウや手法の普及・活用促進方法](#)を検討

# 1. データ・指標分科会

## 課題・目的

- 企業と投資家におけるインパクト測定・管理のニーズは多様であること等から、**実践的なインパクトを示すデータが不足・不明瞭**である点が広く指摘されている。
- **インパクト測定・管理に必要と考えられる各種データ・指標について**、活用事例や知見を共有しつつ関係者のニーズを整理し、**更なるデータ・指標の充実が期待される分野等を特定した上で、望ましいデータベースを構想**する。

## 主な論点・議論内容

- 企業や投資家が取り組む社会課題は幅広いが、分科会におけるアンケート調査で関心の高かった分野である、**気候変動、健康・医療、インフラ整備・都市開発、生物多様性・環境保全**について事例共有を行った。
- **企業は、創出するインパクトの個別性が高い**ため、他社比較よりも**ベースライン値（業界平均等、現状を示す基準値）との比較を志向する傾向**にある一方、**投資家は投資判断において企業間比較を志向することから指標が一定程度共通化**されていることを求める。
- インパクト特定・測定・管理のプロセスにおいて企業・投資家がデータ・指標を必要とする場面は、**①戦略策定時のインパクト目標の特定、②計画策定（事前評価）時のベースライン値の特定、③事後評価時のインパクトの測定（ベースライン値とアウトカム（実測値）の比較・評価）**の主に3つに整理できる。
- インパクトを測定するための指標の特定等に活用可能な既存のデータベースとして、各省庁や国内外の各種団体が取りまとめた指標例、ガイダンス、統計、ツール等が挙げられる。特に**SDGsの文脈では各省庁、自治体、企業、投資家等が目標達成度を測定する指標を設定して取組みを推進しており、関連ツールの開発が進められている**。
- 国際的には主に開発途上国の抱える課題を念頭に置いたデータ・指標の整備が進められているところ、**先進国特有の課題に関するデータ・指標の整備を日本から提案していくことで、グローバルにも貢献していくことが考えられる**。

## 成果物の方向性

1. インパクト特定・測定・管理の意義：基本概説、**企業・投資家がデータ・指標を必要とする3つの主な場面等**
2. データ・指標の整備状況：**3つの主な場面で活用できる国内外の指標一覧やデータベースの整理・提示等**
3. ニーズの高いデータ・指標の整理：**日本特有の課題や企業・投資家の関心の高い分野、充足が求められるデータ・指標等**
4. 望ましいデータベースの方向性：**企業・投資家が3つの主な場面で参照できる「インパクトデータベースの案内板」の青写真** 8

# データ・指標にかかるニーズ (IMMプロセスでの整理)

- IMMでインパクトテーマ毎のアウトカム指標と測定するためのデータ、ならびにベースライン、閾値、目標値を設定するために必要なデータが必要となるプロセスは以下の通り。**データベースは下記に必要なデータのマッピングやアクセスを目指す方向性**

IMMプロセス		関連ツール		
<b>計画</b>				
	目的の設定	解決を目指す <b>社会課題</b> や生み出したい <b>社会的価値</b> を特定	SDG基準インパクト 等	
<b>場面 1</b>	事業・投資戦略の策定	社会課題解決や社会価値創造にいたる <b>道のり</b> と <b>必要な資源</b> について整理し、事業目的を達成する上で重要となる <b>具体的な目標・成果 (アウトカム)</b> を <b>確化・特定</b> 。また、 <b>ステークホルダー</b> や <b>自社</b> にとっての <b>該当インパクト</b> の <b>相対的な重要性</b> を <b>分析し、理解</b> する	ロジックモデル セオリー・オブ・チェンジ 等	アウトカム指標 特定に必要な 参照DB
<b>場面 2</b>	事業・投資計画と評価計画の策定 (事前のインパクト測定、評価)	戦略実現のために <b>必要なアクション</b> を設定するとともに、 <b>評価デザイン*</b> を <b>決定</b> し、 <b>絞り込んだアウトカム</b> に対して <b>これらを測定するための指標</b> 及び <b>成否を判断するためのベースライン</b> と <b>閾値</b> を <b>特定し</b> <b>目指すべき水準</b> を検証。 <small>*事前・事業、時系列、一般指標、マッチング、ランダム等</small>	インパクトのABC 5ディメンション 等	アウトカムの ベースラインや 閾値特定に必 要な参照DB
<b>実践</b>				
	事業・投資実践	事業・投資の実践ならびにアウトプットの確認	—	
<b>評価・分析</b>				
<b>場面 3</b>	インパクト測定・評価	<b>アウトカム</b> につき <b>データ</b> を <b>収集</b> 。決定した <b>評価デザイン*</b> 従い、 <b>ベースライン</b> からの <b>変化</b> を <b>可視化</b> し、 <b>その結果</b> を <b>解釈</b> する。また、 <b>ステークホルダー</b> や <b>自社</b> にとっての <b>該当インパクト</b> の <b>相対的な重要性</b> を <b>分析し、理解</b> する	インパクトのABC 5ディメンション 等	アウトカムの ベースラインや 閾値特定に必 要な参照DB
<b>報告・活用・検証</b>				
	対外開示やIMMプロセス検証	インパクト測定・評価・価値化結果の報告。IMMプロセスの随時検証	OPIM 等	

## 2. 市場調査・形成分科会

### 課題・目的

- インパクト投資に関する実務の確立・普及は途上にある。特に上場企業へのインパクト投資については、未上場企業へのインパクト投資とは異なる論点・課題があり、投資実務が定まっていないとの指摘がある。また、インパクトについては様々な開示・評価がなされ得るところ、その取組みの普及に当たっては、インパクト・ウォッシュの防止を図ることが重要。
- 上場市場におけるインパクト投資に関する課題及びアプローチについて、特にこれからインパクト投資・インパクト創出に取り組む投資家・企業等にとっても参考となるよう取りまとめる。

### 主な論点・議論内容

- インパクト及びインパクト投資の定義については、国内外で一定の定義がなされているが、詳細な要件を定めるようなものは確認できていない。今後、我が国においてインパクト投資の成熟期を迎えるにあたっては、より明確な要件や定義について共通理解を醸成する必要。また、その際、インパクト投資とフィランソピーの違いを明確化することが重要。
- インパクト投資は、社会が今後もサステナブルに発展していくことに貢献。インパクト投資においては、全ての主体（企業、従業員、顧客、投資家、アセットオーナー）がインベストメントチェーンの一部を構成しており、各主体が連携・対応してコレクティブインパクトを創出することで、社会課題の解決に繋がると考えられる。また、インパクト投資やインパクト創出の取組みは、企業価値の向上や多くのステークホルダーとの対話等において有効な手段として評価され、従業員のエンゲージメント向上や、経営・ビジネスモデルの進化、売上の向上、人材確保、資金調達に資することが考えられる。
- 上場企業へのインパクト投資を中心のテーマとしつつも、未上場から上場市場へのシームレスなエコシステムの形成の重要性に鑑み、未上場企業との比較も踏まえながら、①多角的に事業を営む場合のインパクトの特定・測定・管理、②インパクトの開示・対話、③アセットオーナーによるインパクト投資（対話等）について取り組む上での課題、課題へのアプローチ（リソース等に制約がある場合を含む）について議論。

### 成果物の方向性

- インパクト及びインパクト投資の定義・考え方、インパクトに取り組む意義・メリットを再整理した上で、①インパクトの特定・測定・管理、②インパクトの開示・対話、③アセットオーナーによるインパクト投資に関する課題及び課題へのアプローチを整理するとともに、具体的な取組事例等を紹介する。

### 3. 地域・実践分科会

#### 課題・目的

- 地域に潜在的に存在する環境・社会的又は人的資源を活用し、**地域発で社会・環境課題に対応し、経済・社会基盤の強化を実現することへの期待は高く**、実際に、足許で多様な地域企業によるインパクトの創出例が見られつつある。一方、**様々な経営・資本戦略等のノウハウの不足がネックとなる**など、**地域発の取組みの実践は容易でない**。
- まずは多様な取組みの浸透・拡大を図るため、ケーススタディやフィールドワークでの議論を通じて、**社会・環境課題への対応の視点を取り入れた地域における価値創造等の取組みが多岐にわたることの理解促進を図り、関心を喚起するような議論・発信を行い**、**地域におけるインパクト創出・投資に関する機運醸成やネットワーク構築の支援**、それらを通じた**地域への人材・資金の流れの強化**といった地域における好循環の実現を目指す。

#### 主な論点・議論内容

- 地域における事業者の観点から、①**インパクトスタートアップやゼブラ企業が捉える地域の課題に加え、事業成長とインパクト創出のための資金・人材面等の課題等**、②**インパクトとの関連性が見えにくい地域の老舗企業や中核企業が捉える課題と、事業を通してその課題への対応に取り組む意義等**について議論。
- 地域金融の観点から、①**地域におけるVCや地域金融機関等が、地域発のインパクト創出を支援する際の工夫や課題**、②**地域外のVC・投資家や大手企業が地域内のステークホルダーと連携することの意義や留意点等**について議論。

#### 成果物の方向性

- 多様な地域発のインパクトについて、例えば、①**なぜ地域でインパクトを意識することが必要なのか**、②**地域での社会・環境課題への対応を事業成長・経営改革の機会とするには何をどのようにすればよいか**という根源的な問いかけを通じて、**地域内外の幅広い関係者間での共通理解を醸成し共感・協働を得る方法論や、インパクトを事業評価に加味する視点、複層的なファイナンスのあり方**などについて共通する視座等を抽出する。
- また、議論等を通じて共有された地域における創意工夫やプレーヤーの取組み・想い等について、参考となるモデルケース等として、一般に分かりやすい形式で発信する。

### 第1回:2024年7月30日(火) 地域課題とインパクトの概論

- ✓ インパクトスタートアップやゼブラ企業が捉える地域の社会課題と、インパクト拡大のための資金・人材面等の課題等

### 第2回:2024年10月17日(木) 地域企業のインパクトビジネス最前線

- ✓ インパクトとの関連性が見えにくい老舗企業や中堅企業が捉える地域の社会課題と、事業を通して取り組む意義

**【フィールドワークの実施】** ※2024年12月5日～6日に第一回を実施、25年3月13～14日に第二回実施予定

地域内外の関係者が連携・協働してインパクトの創出に取り組む地域（中小企業庁「地域の社会課題解決企業支援のためのエコシステム構築実証事業」の選定先も含む）の関係者と、エコシステム形成や関係者の協働のあり方等を議論

## 事業トラック これまで事例紹介した企業



**AMU:** 廃棄された漁網を再利用して新しい素材を作り、漁網に価値を見出す気仙沼発ベンチャー。



**komham:** 生ゴミを微生物で高速分解する技術を持つ北海道発ベンチャー



**电脑交通:** 徳島県のタクシー会社からスピンアウトしたタクシー業界のDXを目指すスタートアップ



**島田木材:** 昭和23年創業の富山県南砺市にある林業会社。森林経営、丸太生産、ウイスキー樽製造の他地域活性化の多様な取組を実施



**CNC:** 島根を中心に全国各地で人々の生活とウェルビーイングを向上させる為、コミュニティナースの育成、社会実装、相互扶助の促進を行う



**LivEQuality:** 名古屋の中小企業千年建設の新規事業としてシングルマザー向けの住宅事業をスタート

## 事業トラック フィールドワークについて



- 2024年12月5日～6日で京都府の丹後地域にフィールドワーク。座長、副座長、ディスカッションメンバー、金融庁事務局が参加
- フィールドワーク先は中小企業庁のローカルゼブラ実証事業の採択先。
- 京都北都信用金庫、ローカルフラッグ、ウエダ本社、クスカの4社を訪問し各事業者との対話と現地視察を実施
- 地方のリアルな課題の把握、地域金融機関のチャレンジ、中小企業や伝統産業のアップデート、若者が中心となって新産業を作る様子に加え、地域におけるキーマンの繋がりで作られているエコシステムが垣間見えた
- リアルで会うのは初めてのメンバーも多く、分科会関係者間の関係構築という点でも有益であった



# 金融トラック テーマと各回の議題



「資金の循環により地域のインパクトを創出する取組み」を金融トラックのテーマとして定め、参加者の意識・行動変容につなげることを目的に話題提供いただきました。

## 2024年11月22日付分科会

特に資金提供者目線で資金循環を通して地域におけるインパクト創出に取り組む事例を紹介し、主に**地域の資源を活用したインパクト創出に取り組む意義(Why)や仕組み(What)**を中心に理解を深めました。

### 投資から融資、コンサルティング 地域の資源を活かした地域金融機関の新しい価値



肥後銀行経営企画部長  
坂田様



八十二インベストメント  
営業部副部長  
山田様

### 地域のスタートアップエコシステムと インパクトのバトン



うむさんラボ  
代表取締役CEO  
比屋根様



日本民間公益活動  
連携機構  
出資事業部長  
小崎様

## 2025年2月27日付分科会

世代や組織、地域を超えた人材交流や、既存のインパクト志向のイニシアティブとの連携を通じて地域におけるインパクト創出の次なる一步を踏み出し、**実践に繋げる方策(How)**を中心に理解を深めました。

### インパクト創出に向けた人材交流の実践



UntroD Capital Japan  
取締役  
山家様



池田泉州キャピタル  
投資部部长  
武川様



ベータ・ベンチャーキャピタル  
代表取締役パートナー  
渡辺様



QPS研究所  
代表取締役社長 CEO  
大西様

### 既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化



三井住友信託銀行  
フェロー役員  
金井様



静岡銀行  
法人FG課長  
山崎様



北九州市  
未来産業推進部長  
森永様

インパクト志向金融宣言地域金融分科会

## 振り返り

- ✓ 「資金の循環を通じた地域インパクト創出」というテーマのもと、地震からの復興支援における地域金融機関の役割などの課題解決の伴走者としての多角的なアプローチや、産学官金連携によるエコシステムの形成など、地域特有の課題に対しインパクトを創出している取組みが、具体的に示されました。
- ✓ 議論を通じて浮き彫りになったのは、地域においてインパクトを意識する必要性 (Why)、インパクト創出に向けたリソースや戦略 (What)、そして最初の一步をどう踏み出すか (How) という問いに対し、各地がそれぞれの背景やニーズに応じた形で実践を進めている点です。共通するのは、金融支援にとどまらない連携や協働の重要性でした。
- ✓ 地域資源や、地方に眠る技術や研究成果を社会課題解決のために活用し、新たな産業創出を支援している事例も共有されました。
- ✓ 少子高齢化という全国共通の課題を克服するためには、「人的資本の循環」を通じて、多様な知見や経験を地域に還流させ、「知恵の循環」を促進することが必須であることと、専門人材が地域に根ざし、新たな価値を創出することへの期待が寄せられました。

## メディア掲載

- ◆ 地域における創意工夫やプレーヤーの取組み・想い等をモデル性のあるケースとして発信し、地域における気運醸成につなげるとの分科会趣旨に基づき、オーガナイズングデスクが「インパクトコンソーシアム 地域・実践分科会開催報告」を連載したほか、Forbes JAPAN2025年3月号にて分科会の取組が地域金融関係者による座談会形式で紹介されました。

## 4. 官民連携促進分科会

### 課題・目的

- 社会課題が多様化する中で、**国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携しその課題解決にあたる必要性**が増している。特に、**自治体と地域の社会課題解決を目指すインパクトスタートアップとの連携促進**が求められている。
- 他方、**官民連携に際しては、行政組織側、スタートアップ側のそれぞれに課題が存在して、双方の課題の把握と解消に向けた取組みが必要**である。
- 課題に対応する優れた連携事例は存在する一方、**解決策やノウハウの共有機会は乏しく、横展開を進めにくい状況**。

### 主な論点・議論内容

- 官民連携に際して、**行政組織側とスタートアップ側が抱える課題を明らかにする**ための調査を行い、コアメンバー等からの意見を踏まえつつ、**解消すべき課題とその対応策に関して検討・議論**を行った。（下記が課題例）
  - 自治体とインパクトスタートアップの**接点が限定的**で、**課題に対し優れたソリューションとのマッチングに至りにくい**。
  - 自治体の中で、インパクトスタートアップを始めとする**民間事業者との連携に関するルールやプロセスが未整備**。
  - インパクトスタートアップと自治体間で、**コミュニケーション、プロセス、スピード感など様々なギャップが存在**。等
- 官民連携事例の創出・促進を実現させるためには、官民連携に関心は高いが実践できていない自治体職員やインパクトスタートアップを対象に**収集した情報を体系的にまとめて共有する必要**がある。

### 成果物の方向性

- 令和6年度中に、自治体とインパクトスタートアップの連携における課題の解決を目的に、**インパクトスタートアップのソリューションや、官民連携に資するノウハウ・事例等の情報を集約した成果物（実践ガイド）**を作成する。
- **今後の具体的な事例創出に繋げる**ことを目指して、例えば、デジタル行財政改革 国・地方スタートアップ連携実務者会議等の関係省庁の取組とも連携しながら、「**実践ガイド**」の**認知・活用を促す**。
- 連携事例の情報収集を通じて、**官民連携促進に資する効果的な手法を新たに検討・議論**するとともに、**追加的なノウハウや好事例を共有**することで、**事例創出や実践拡大の実現に繋げる**。

# 本年度事業終了時に目指す姿

- 官民連携に係る課題が数多く存在していることを踏まえ、本年度事業の終了時には、**官民連携に資する情報がまとまった「実践ガイド」**が作成され、**実体験を基にした集積知**が普及されることで、**自治体・ISUが官民連携を実践可能な状態**を目指す。
- 本年度事業によって作成された「実践ガイド」が、**本年度以降に渡って各地域での官民連携の普及・促進を加速し、地域課題の解決による国民への利益を広く高める効果**を創出したいと考えている。



## 【本事業で創出したい効果】

アウトプット



- **インパクトスタートアップのソリューションマップ**や、**官民連携に資する情報**を集約した成果物（＝実践ガイド）を作成
- デジタル行財政改革 国・地方スタートアップ連携実務者会議等 関係省庁の取組みとも連携し「**実践ガイド**」の**認知・活用**を促す
- 具体的な官民連携の**事例創出に向けた議論・検討**を行う

本年度事業終了時の状態



- 「実践ガイド」に基づき多くの自治体が官民連携**事例を創出するきっかけ**ができている
- 作業部会のメンバーが検討した**官民連携プロセス・ノウハウが整理・標準化**される

アウトカム



- 「実践ガイド」やこれまで蓄積したノウハウが**より多くの官民連携実績や事例**を生む
- インパクトスタートアップとの官民連携を通じた各地域での**社会課題解決**が進む

# 官民連携までの各プロセスにおけるポイント

- 「実践ガイド」では、官民連携が実現するプロセスの各ステップにおける自治体・スタートアップの課題を再整理したうえで、過去の連携実績における各ステップでの試行錯誤の成果やノウハウなどを集約し、ポイントをまとめている。

		連携準備段階		連携検討段階		
		課題特定・企画	連携先の探索	調整・意思決定	連携方法の検討	予算化
自治体		<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業からの提案を呼び込むために、地域の現状を踏まえた課題設定を行う</li> <li>他都市の類似事例の情報収集を行い、共通課題を見出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携先候補を絞り込むためのツールを紹介</li> <li>官民マッチングの場に参加する</li> <li>課題解決に資するソリューションを持つスタートアップとの意見交換等を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部署との連携が必要な場合、スタートアップと連携するメリットについて理解を促進</li> <li>従来方式からの優位性を内外に示していくため、情報収集を徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共調達を検討する際は、新方式の優位性(コスト減、質向上)を示す</li> <li>調達以外の連携可能性もある(連携協定・共同プロモーション・実証実験・共同開発等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携先候補から下見積もりを徴取</li> <li>スタートアップの強みが損なわれない仕様書、選定方法を検討</li> <li>柔軟な契約が可能かも組織内で要確認(概算払い、分割払い等)</li> </ul>
	スタートアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社のサービス領域における政策の動向、実態、課題を押さえる</li> <li>課題と自社のコアバリューを發揮した解決の方向をまとめ、自治体側からのフィードバックを得ながら検討を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存事業の改善、新規事業の検討、自社との縁などから連携先の自治体を探索する</li> <li>自治体の重点課題を踏まえ、特に1事例目はオンリーワン/日本初といったゴールを目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話を重ね、サービス内容と提供スキーム、自治体や担当部署にもたらされる便益を整理し、意思決定を促す</li> <li>結論を急がない(自治体内の意思決定は重層的であり、時間がかかることに寄り添う)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスモデル次第では、BtoGtoB/BtoGtoCのように、公共調達以外の出口での連携可能性も検討</li> <li>その際には、役割分担やリソースの調達方法を具体化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算編成のスケジュールに合わせて情報提供を行う</li> <li>時期によっては、当該年度でも次年度でもなく、トライアルでの関与や無償でのミニマムな提供も検討</li> </ul>

※ プロセスはあくまでも想定であり、必ずしもこの通りに進むわけではないことに留意

## (ご参考) 第2回合同作業部会での議論

- 第2回合同作業部会では、まず実践ガイドの骨子案について、「読者にとって内容をわかりやすくする工夫が必要である」、「官民連携における中間支援団体のノウハウ・契約に関する諸問題についても取り上げてほしい」などの意見をいただいた
- また、今後の分科会での活動について、「自治体・スタートアップのメンバーがマッチングや交流を行うことができるようにすること」や、「メンバーが実践ガイドを活用して官民連携に取り組んでいく」、「実践ガイド自体を広報していくこと」などのご意見をいただいた

### 第2回合同作業部会の内容



「実践ガイド」の骨子案  
に関する議論

### 皆様からのご意見

- 「スタートアップ」や「インパクトスタートアップ」といった言葉については、**読者の理解のために丁寧な説明**が必要
- 既に官民連携事例の創出に取り組んでいる**中間支援団体等のノウハウも取り入れ**られると良い
- **関係省庁が発行しているガイドラインとの連携**についても検討したい
- **契約の重要性や契約に関する諸問題**についても記載したい
- 今後の更新や、読者が局所的に参照する**ユーザビリティ**を考慮して、電子媒体にすることも一案
- 自治体とスタートアップの連携を強制するものではなく、あくまでも**社会課題解決の手段の一つ**であるニュアンスも重要



官民連携促進分科会の  
今後の活動に関する議論

- 実践ガイドを単に公開するだけでなく、**積極的なマーケティング・営業活動等**を行う仕掛けが必要
- 自治体とスタートアップが**出会う場（マッチング）**が重要
- コアメンバー以外の自治体メンバーを対象に、実践ガイドの**利用可能性をヒアリング**することも一案
- 実践ガイドを活用してみた所感や**今後の取組促進に向けた示唆・発信**が必要
- **知事会や市長会でのPRや、議会や議員勉強会の質問**で取り上げていただくことも一案
- **ニュースメディアと連携**して面白く取り上げていただくなどの認知拡大も一案

## (ご参考) 第2回分科会の内容

- 第2回分科会では、自治体・ISU・中間支援団体の各セクターより、官民連携の実践経験や支援実績を有する方々をお招きし、それぞれの事例紹介を通じて、実践ガイドにも記載している官民連携のメリットやポイントを中心にお伝えいただいた

### 【インパクトコンソーシアム 第2回官民連携促進分科会の開催概要】

会議名	インパクトコンソーシアム 第2回官民連携促進分科会		
日程	令和6年10月28日(月) 13:00~15:00	開催方式	オンライン
会議対象者	分科会参加者全員		

	テーマ	形式	登壇者
会議内容	官民連携による 社会課題解決の可能性	事例紹介 ディスカッション	スタートアップ 自治体 中間支援団体 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サグリ株式会社 取締役 (農地活用事業担当) 益田 周 様</li> <li>・つくば市 政策イノベーション部 科学技術戦略課 スタートアップ推進室長 屋代 知行 様</li> <li>・NPO法人コミュニティリンク 理事 (Urban Innovation JAPAN) 松村 亮平 様</li> </ul>
	官民連携の実践方法・ ノウハウの取りまとめ (実践ガイド) について	説明	コアメンバー <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡市 経済観光文化局 創業支援課 創業推進係長 松尾 彩佳 様</li> <li>・一般社団法人インパクトスタートアップ協会 石塚 理博 様</li> </ul>

## (ご参考) 第3回合同作業部会での議論

- 第3回合同作業部会では、現在作成を進めている実践ガイドの初版案をご覧いただいたうえでのご意見を伺ったほか、官民連携促進分科会の来年度の活動方針について、事務局より案をお示したうえでコアメンバーの皆様よりご意見を伺った



実践ガイド初版案  
について

- 事務局より事前に共有した実践ガイド初版案の**最終化に向けて、加筆・修正可能な箇所**はあるか
- **実践ガイドの読者像**について、皆様の想定と相違ないか
- 今後実践ガイドを**周知・普及**させていくにあたって、皆様からご協力いただけることはあるか



次年度の活動  
方針について

- 次年度の分科会活動方針を事務局よりお示したうえで、**分科会が担う役割**について違和感がないか
- コアメンバーの皆様が今後どのような官民連携の取組を予定されているか、またその取組に関する**事務局との情報連携やコミュニケーション**は可能か
- 次年度の分科会に係る**体制・実施事項**についてご意見はあるか

# (ご参考) 第3回分科会の内容

- 第3回分科会では、地方創生に関する政策の説明や実践ガイドの解説に加え、都市部と小・中規模都市における官民連携に関するパネルディスカッションや官民それぞれの団体における活動の紹介を実施

## 【第3回分科会開催概要(事務局案)】

目的	次年度以降の分科会活動に向け、 <b>官民連携の機運が徐々に高まっている</b> ことを理解いただき、実際に自治体とスタートアップの連携による地域や行政の課題解決に取り組む方の <b>熱量と創意工夫をメンバー間の対話を通じてお伝えする</b>		
実施日時	令和7年3月5日(水) 13:00～15:30	開催形式	基本オンライン開催を想定（登壇者は現地）
参加者	分科会メンバー、その他官民連携に関心がある自治体・ISU・関係者の方々		

		主旨・内容	登壇者
プログラム	地方創生に関するご説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生2.0や第2世代交付金の概要等に関するご説明</li> <li>・社会的なモメンタムが生まれていることをお伝えいただく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣官房・内閣府 中村様</li> </ul>
	官民パネル① 「都市部での官民連携」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的大規模な自治体とスタートアップ間の官民連携に関する取組の紹介</li> <li>・成果・今後の意向も合わせて共有いただく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県 金丸様</li> <li>・TBM 笹木様</li> </ul>
	実践ガイドの解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践ガイド初版の内容とその公開に関する共有</li> <li>・知財関連の課題に関する共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PwC</li> <li>・デジタル行財政改革会議事務局 小林様</li> </ul>
	官民パネル② 「小・中規模都市での官民連携」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模自治体とスタートアップ含む民間企業における官民連携に関する取組の紹介</li> <li>・実践上の工夫や担当者の動きについても共有いただく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭山市 岸様</li> <li>・CureApp 宮田様</li> <li>・ISA 石塚様</li> </ul>
	ISA・スタ協の活動紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間側・行政側それぞれの団体における現在の取組と今後の展望についてご共有いただく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISA 米良様</li> <li>・スタ協 紫垣様</li> </ul>

### 意見交換①：分科会における議論について

- 分科会の今後の議論や成果物について、どのようなことを期待するか。

### 意見交換②：インパクトコンソーシアムの今後の運営について

- インパクトコンソーシアムの今後の運営のあり方について、どのように考えるか。  
特に、運営委員会や分科会、その他の会議体において議論すべきと考えられるテーマ・論点について、どのように考えるか。

**1. 開会**

**2. 事務局説明**

【5分】

**3. 分科会における議論（中間報告）**

【各分科会10分（計40分）】

**4. 意見交換①**

【45分】

**5. 第1回アドバイザリー委員会・グローバルアドバイザリーパネル等における議論**

- ◆ 安間 匡明      アドバイザリー委員会委員長      【10分】
- ◆ 中村 将人      グローバルアドバイザリーパネル企画座長      【10分】
- ◆ 事務局説明      【5分】

**6. インパクトコンソーシアムのTheory of Changeを考える会長主宰研究会における議論等**

- ◆ 水口 剛      インパクトコンソーシアム会長      【15分】

**7. 意見交換②**

【45分】

**8. 閉会**

# インパクトコンソーシアムにおける分科会連携会議 開催概要

## □ 開催趣旨・目的

- 全分科会の座長・副座長を交えた、分科会の進捗報告を通じた機運醸成
- 分科会座長・副座長視点での今後のコンソーシアム・分科会のあり方に関する意見収集を通じたコンソーシアムの取組みの昇華

## □ 開催要領

【日 時】 第1回：2024年12月13日 / 第2回：2025年2月28日

【形 式】 対面・オンライン（ハイブリット形式）

※事務局：オーガナイズングデスク（GSG Impact JAPAN）

分類	論点	対応方針
参加者の知識レベルの平準化	一般会員等に対し、用語の定義等の基礎知識についてインプットを行うべきではないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来年度より、オーガナイズングデスク主催で、<b>初級者向けの勉強会を実施予定</b>（過去に開催された金融庁・GSG共催勉強会をベースとする）</li> <li>● その他、中・上級者向けの勉強会等を実施するか検討中</li> </ul>
一般会員等の参画方法	ディスカッションメンバーや一般会員が、より多く参画できる機会・方法を検討すべきではないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水口会長主宰のToC研究会の一環で、<b>会員向けアンケートを実施済み</b></li> <li>● <b>Social Impact Day 2025</b>において、GSG×インパクトコンソーシアムのセッションを企画</li> <li>● その他の参画方法については今後検討</li> </ul>
各種会議体の役割の整理・合理化	インパクトコンソーシアム内の会議体のあり方を見直し、分科会に負担が集中しないよう、効率的に運営すべきではないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>運営委員会や水口会長主宰のToC研究会、分科会連携会議のあり方</b>について検討</li> </ul>

## 意見交換①：分科会における議論について

- 分科会の今後の議論や成果物について、どのようなことを期待するか。

## 意見交換②：インパクトコンソーシアムの今後の運営について

- インパクトコンソーシアムの今後の運営のあり方について、どのように考えるか。  
特に、運営委員会や分科会、その他の会議体において議論すべきと考えられるテーマ・論点について、どのように考えるか。

## 參考資料

## 概要

- 国内外の先行研究等と連携しながら、投資事例等の共有・分析等を行い、中長期的な課題解決・事業性実現等に有効なインパクト指標の設定のあり方、投資実施時のデータの収集・推計方法、社会課題を示すマクロデータのあり方など、データ・指標の項目と着眼点、収集方法等について、議論を行う。
- 当面は、企業・投資家が資金調達・投資、その後の対話に活用出来る実践的なインパクトデータが不足・不明瞭である点が広く指摘されていることを踏まえ、投資で実際に活用されたデータとケースを集約する**国際的なデータベースとの接続も含め、日本固有のデータ・指標も結合したデータベースの整備・運用等に向け、議論を進める。**

## メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 代表理事 今田 克司  
東京大学大学院経済学研究科 教授 山口 慎太郎
- 副座長：株式会社みずほフィナンシャルグループ サステナブルビジネス部副部長 末吉 光太郎
- ディスカッションメンバー (12名)
  - ・ 株式会社メトリクスワークコンサルタンツ 青柳 恵太郎
  - ・ 第一三共株式会社 有馬 寛
  - ・ KIBOW社会投資ファンド 五十嵐 剛志
  - ・ 野村証券金融工学研究センター 太田 洋子
  - ・ 積水化学工業株式会社 岡田 邦彦
  - ・ 慶應義塾大学准教授 川久保 俊
  - ・ 第一生命保険株式会社 小山 直希
  - ・ 大和ハウス工業株式会社 関 沙織
  - ・ アセットマネジメントOne株式会社 濱口 実  
※2024年12月に同社 鷹羽 美奈子氏から変更
  - ・ Nippon Life Global Investors Europe Plc 林 寿和
  - ・ ユニファ株式会社 星 直人
  - ・ 株式会社日本政策投資銀行 松山 将之

## 活動と成果のイメージ

1

インパクトデータ・指標の  
現状・課題等の整理

- ・ インパクト測定・管理の意義、必要と考えられる各種データ・指標とその重要性について、幅広い分科会メンバーと認識を共有した上で、分科会メンバーに対するアンケート調査を実施し、ニーズを把握する。
- ・ その上で、インパクト投資や事業実施に必要なデータ・指標や、それぞれのニーズに応え得る既存のデータベースとその特性、データベースに関する課題等を整理する。

2

有用なデータベース構想  
に向けた検討の観点の整理

- ・ 多様な企業・投資家がインパクト測定・管理に取り組む際に有用なデータベース構想に向けた検討の観点を洗い出し、整理する。
- ・ 検討の観点として、例えば、日本または地域の環境・社会課題に対応するインパクトデータ、インパクトを測定・管理する場合に必要なマクロデータの整備状況等を取り上げる。

3

望ましいデータベースの  
方向性

- ・ 関係者のニーズを踏まえ、既存のインフラでは不足しているデータ・指標や分野等を特定し、望ましいデータベースを構想する。  
※例えば、投資家や企業のインパクト戦略・目標に紐づく指標が特定され、それに関連するデータの存在がわかるような仕様や、海外のインパクト指標関連ツールとの連携、関連情報や活用事例の掲載等が考えられる。

- ・ 開催形式は原則オンライン、1回につき2時間程度で、2025年5月までに3回程度の開催を予定（変更の可能性あり）。
- ・ オーガニングデスクはデータ・指標に関する事例調査等の国際連携の支援や、分科会における議論の分かりやすい発信等を実施。

## 概要

- 日本のインパクト投資市場の概況を整理し、国際比較や本邦投資家・企業等の特徴も踏まえつつ、裾野拡大を図るべき市場やこのための課題等について議論する。例えば、上場前の又は上場を目指さない企業のインパクト評価、セカンダリー・上場等の出口、多角的な事業を営む上場企業へのインパクト評価、長期投資のあり方等について順次議論を行う。
- 初年度は、特に**投資実務の基本的考え方が定まっておらず議論が重要との指摘の大きい上場市場**に着目し、投資の際の事業の特定、企業と投資家の対話等の課題に関する議論を行い、**実務者も容易に理解できる論点ごとの簡潔な上場市場におけるインパクト投資の要点を発信**していくことを目指す。

## メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：フロネシス・パートナーズ株式会社 代表取締役 白石 智哉
- 副座長：りそなアセットマネジメント株式会社 チーフ・ファンド・マネージャー 井浦 広樹  
インパクト・キャピタル株式会社 代表取締役 黄春梅
- ディスカッションメンバー（14名）
  - ・ 大和証券株式会社 池川 忍
  - ・ ライフイズテック株式会社 石川 孔明
  - ・ 日本生命保険相互会社 岩淵 正明
  - ・ 株式会社NTTデータグループ 遠藤 荘太
  - ・ 五常・アンド・カンパニー株式会社 堅田 航平
  - ・ 三菱UFJ信託銀行株式会社 加藤 正裕
  - ・ 株式会社クラダシ 河村 晃平
  - ・ 東京海上アセットマネジメント株式会社 菊池 勝也
  - ・ カディラキャピタルマネジメント株式会社 坂本 一太
  - ・ アサヒグループホールディングス株式会社 西原 香織
  - ・ 株式会社かんぽ生命保険 野村 裕之
  - ・ GLIN Impact Capital 秦 雅弘
  - ・ 野村證券株式会社 林田 稔
  - ・ ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社 松本 陽子

目指す姿	企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資家との対話を踏まえ、新たな市場創出や社会・事業の変革に向けた企業経営を一層促すべく、<b>事業が創出するインパクトが企業価値の向上・創造につながる企業戦略を策定・実践</b>していく。</li> </ul>
	投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>インパクトと長期的な収益の双方を実現していくため、投資先の事業が創出する「インパクト」をいかに企業価値向上につなげるか、<b>戦略・因果関係を特定し、企業等の有する潜在性を引き出すよう対話を重ね、創意工夫等を促していく。</b></li> </ul>
成果イメージ	中期的	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業・投資家を含む幅広い市場関係者の目線も踏まえ、<b>特に上場企業を念頭に、インパクトが企業価値の向上・創造につながる企業戦略の在り方</b>について議論を進めていく。</li> </ul>
	初年度	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>初年度は、特に、上場企業へのインパクト投資戦略を切り口</b>としてディスカッションメンバー等で議論を重ねつつ、例えば以下のテーマごとに簡潔なディスカッションペーパー等を策定・発信し、<b>中期的な成果に向けた検討を進め</b>ていくことが考えられる。</li> </ul>

## ディスカッションテーマのイメージ

① 多角的に事業を営む企業への投資戦略	対象となる事業を特定すればインパクト測定等は容易になるとも想定される一方、上場企業等は多角的に事業を営むもの。上場市場におけるインパクトの特定・促進の考え方や戦略の種類について、各社の事例をもとに議論する。
② 企業のリソースに応じたインパクト評価	リソースが限られるエマージング上場市場の企業等がインパクトを企業価値の向上につなげようとした場合、どのようにリソースを配分して取り組みを進めることが考えられるか、議論する。
③ 投資家の事業の見方と企業の開示	投資家はインパクト投資を行うにあたってどのような視点で事業を理解していくのか、その際にどのような情報が必要か、企業における開示の負荷等も考慮した上で議論する。
④ 企業と投資家のエンゲージメント	インパクトを企業価値の向上につなげていくために望ましい対話のあり方について、これまでの企業価値向上のためのエンゲージメントの事例も踏まえながら議論する。
⑤ アセットオーナーによる受益者への説明	インパクト投資の裾野拡大のためには、最終受益者の理解が欠かせないという観点から、アセットオーナーが最終受益者の意向を汲み取り、理解と議論を深める方法論等について議論する。

- 開催形式は原則オンライン。1回につき2時間程度、2025年5月までに5回程度の開催を予定（変更の可能性あり）。
- オーガナイズングデスクは専門知見の提供や、分科会における議論の分かりやすい発信等を実施。

## 概要

- 地域には、潜在的に活用し得る様々な環境・社会的又は人的資源が存在。こうした資源を活用しつつ地域発で環境・社会課題に対応し、経済・社会基盤の強化を実現していく取組みへの期待は高い。
- 実際に、足許、規模や業種、求める社会・環境的效果や収益水準、成長速度等も多様な企業によるインパクトの創出例が見られつつある一方、地域からインパクトの実現を通じて事業の成長・持続可能性等を実現するには様々な経営・資本戦略等のノウハウが必要で、取組みの実践は決して容易でないと考えられる。
- このため、まずは多様な取組みの浸透・拡大を図るよう、社会・環境課題の解決の視点を取り入れた地域の価値創造等の取組可能性が多岐にわたる点が理解し易い、関心喚起型の議論・取組みが重要。課題意識を持ち易い多様な発信を行い、機運醸成とネットワーク構築を支援し、地域への人材・資金の流れを強化していくことで、環境・社会課題の解決と成長が、様々な工夫の下で相互に補完・強化する好循環の地域発での実現を目指していく。

## メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ プリンシパル 宜保 友理子、龍谷大学教授 深尾 昌峰
- 副座長：一般財団法人社会変革推進財団 常務理事 工藤 七子、  
株式会社日本政策投資銀行 経営企画部サステナビリティ経営室長 金谷 真吾
- ディスカッションメンバー（14名）
  - ・ 株式会社静岡銀行 大杉 幸弘
  - ・ 三井住友信託銀行株式会社 金井 司
  - ・ 株式会社UNERI 河合 将樹
  - ・ 一般財団法人日本民間公益活動連携機構 小崎 亜依子
  - ・ 株式会社陽と人 小林 味愛
  - ・ 株式会社Zebras and Company 田淵 良敬
  - ・ 株式会社うむさんラボ 比屋根 隆
  - ・ 株式会社ヘラルボニー 松田 崇弥
  - ・ 日本商工会議所 松本 憲治
  - ・ 北九州市 森永 康裕
  - ・ 八十二インベストメント株式会社 山口 哲也
  - ・ 公益財団法人東近江三方よし基金 山口 美知子
  - ・ UntroD Capital Japan株式会社 山家 創
  - ・ ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社 渡辺 麗斗

## 年間計画のイメージ

- 各回、以下のようなゲストスピーカー（2～3名）にプレゼンいただき、ディスカッションメンバー等による議論を行う。原則オンライン開催、2時間程度。

### 深尾座長・工藤副座長

- ✓ **【地域課題とインパクトの概論】**  
インパクトスタートアップやゼブラ企業が捉える地域の社会課題と、インパクト拡大のための資金・人材面等の課題等
  - ✓ **【地域企業のインパクトビジネス最前線】**  
インパクトとの関連性が見えにくい老舗企業や中堅企業が捉える地域の社会課題と、事業を通して取り組む意義
- ※ 24年7月下旬、9～10月頃に開催予定

### 宜保座長・金谷副座長

- ✓ **【地域内の関係者によるインパクトの創出支援】**  
地域VCや地域金融機関等が、地域発のインパクト創出を支援する際の創出意工夫や課題等
  - ✓ **【地域外の関係者との連携によるインパクトの創出】**  
地域外のVCや大手企業等が、地域のステークホルダーと連携し、地域事業を支援する際の意義や留意点等
- ※ 24年11月頃、25年2月頃に開催予定

**【フィールドワークの実施】** ※ 24年12月、25年3～4月頃に実施予定

- ・ 地域内外の関係者が連携・協働してインパクトの創出に取り組む地域（中小企業庁「地域の社会課題解決企業支援のためのエコシステム構築実証事業」の選定先も含む）の関係者と、エコシステム形成や関係者の協働のあり方等を議論

## 【事例や各回の議論を下記の通り整理し、成果物等の作成・発信】

- 多様な地域発のインパクトについて、ケーススタディやフィールドワークでの議論を通じて、**例えば、地域内外の幅広い関係者間での共通理解を醸成し共感・協働を得る方法論や、インパクトを事業評価に加味する視点、複層的なファイナンスのあり方**など、共通する視座等を抽出し、成果物として発信
- 各回の議論やフィールドワークを通じて共有された**地域における創意工夫やプレーヤーの取組み・想い等**については、他の市場参加者の取組みの参考となるモデル性のあるケース等として、オーガナイズングデスクがブログ等の一般に分かりやすい形式で、タイムリーに発信することを検討
- 議論の気づきをわかりやすく伝えるため、座長より、議論で印象に残った創意工夫やプレーヤーを各回の総括の中で紹介

## 概要

- 社会課題が多様化する中で、国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携しその課題解決にあたる必要性が増しているところ、**特にインパクトスタートアップと連携した社会課題解決の促進について議論**する。
- 行政組織とインパクトスタートアップとの官民連携に関しては、行政組織側、スタートアップ側にそれぞれ課題が存在しており、こうした**課題を構造化したうえで提示をし、課題解決の方向性と手法に係る議論を深めていく**。
- 令和6年度は、特に自治体とインパクトスタートアップの連携における課題の解決を目的に、**インパクトスタートアップのソリューションや、官民連携に資するノウハウ・事例等の情報を集約した成果物を作成**、その普及・活用促進方法に係る検討を行い、**今後の事例創出に繋げることを目指す**。

## メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎  
一般社団法人インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- コアメンバー：
  - ・ 札幌市 経済観光局 経済戦略推進部 イノベーション推進課 スタートアップ推進担当 係長 伊藤 諒
  - ・ 株式会社TBM 常務執行役員CMO 笹木 隆之
  - ・ ライフイズテック株式会社 取締役 CEAIIO 讃井 康智
  - ・ 福岡市 経済観光文化局 創業推進部 創業支援課長 紫垣 和宏
  - ・ 浜松市 産業部 スタートアップ推進課 課長 田中 言彦
  - ・ 株式会社CureApp 事業開発・推進統括取締役 宮田 尚
  - ・ つくば市 政策イノベーション部 科学技術戦略課 スタートアップ推進室長 屋代 知行

## 今年度分科会終了時に目指す姿

- ・ **インパクトスタートアップと自治体の官民連携においては、現状多くの課題が存在している**  
 (課題の例)
  - －自治体とインパクトスタートアップの接点が限られており、課題に対し優れたソリューションがあってもマッチングに至りにくい
  - －自治体の中で、インパクトスタートアップを始めとする民間事業者との連携に関するルールやプロセスが整理されていない
  - －インパクトスタートアップと地方自治体の間には、コミュニケーションの仕方、プロセス、スピード感など様々な面でギャップがある
  - －自治体が連携する事業者を選定するにあたって、その性質上インパクトスタートアップを選びにくい傾向がある
- ・ 上記のような課題に対応する優れた連携事例は存在する一方、**解決策やノウハウの共有機会が少なく、横展開が進みにくい**



### アウトプット



- ・ **インパクトスタートアップのソリューションマップや、官民連携に資する情報**を集約した成果物 (= 実践ガイド) を作成
- ・ デジタル行財政改革 国・地方スタートアップ連携実務者会議等 関係省庁の取り組みとも連携し「**実践ガイド**」の認知・活用を促す
- ・ 具体的な官民連携の**事例創出に向けた議論・検討**を行う

※運営について

- ・ 開催形式は原則オンライン。1回につき1～2時間程度、2025年3月までに3回程度の開催を予定（変更の可能性あり）
- ・ コアメンバーによる議論を別途行った上で、分科会では広くメンバーから意見を募る形を想定

### 今年度分科会終了時の状態



- ・ 「実践ガイド」に基づき多くの自治体が官民連携**事例を創出するきっかけ**ができています
- ・ 作業部会のメンバーが検討した**官民連携プロセス・ノウハウが整理・標準化**される

### 中長期的なアウトカム



- ・ 「実践ガイド」やこれまで蓄積したノウハウが**より多くの官民連携実績や事例**を生む
- ・ インパクトスタートアップとの官民連携を通じた各地域での**社会課題解決**が進む

- **インパクト実現を図る経済・金融の多様な取組みを支援し、インパクトの創出を図る投融資を有力な手法・市場として確立し、事業を推進**していくため、**投資家・金融機関、企業、NPO、自治体等の幅広い関係者が協働・対話を図る場**として、23年11月、官民連携の「**インパクトコンソーシアム**」を設置。
- 運営については、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、**参加者の自主的な課題設定・議論**を旨とし、**投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信**を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項に係る議論を行う。また、必要に応じ、政策発信を含む**対外メッセージの発信**等を検討していく。

## 会長

- 高崎経済大学 学長 水口 剛

## 副会長

- GSG Impact JAPAN※<sup>1</sup> 委員長 渋澤 健
- 日本経済団体連合会 常務理事 長谷川 知子
- 全国銀行協会 企画委員長 安地 和之

## 運営委員

- 日本経済団体連合会 本部長 正木 義久
- 経済同友会 執行役 宮崎 喜久代
- 日本商工会議所 理事・企画調査部長 五十嵐 克也
- インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- GSG Impact JAPAN事務局SIIF専務理事 青柳 光昌
- スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎
- 三井住友FG グループCSuO 高梨 雅之
- 常陽銀行 取締役常務執行役員 小野 利彦
- 日本生命保険 執行役員 河崎 圭助※<sup>2</sup>
- 野村ホールディングス CSuO兼情報開示担当 岸田 吉史
- 日本ベンチャーキャピタル協会会長 田島 聡一
- 日本政策投資銀行 執行役員経営企画部長 成清 正和
- りそなアセットマネジメント 常務執行役員 松原 稔

※ 1 GSG国内諮問委員会から名称変更

※ 2 協会の年次体制変更に伴い、第一生命保険 常務執行役員 重本 和之氏から交代

有識者等によりアドバイス等を受ける機構として、それぞれ以下のような目的で、「アドバイザリー委員会」、「グローバルアドバイザリーパネル」、「オーガナイズングデスク」の3つ設置し、メンバー間及び対外機関等との円滑かつ実効的な議論を進める

## 総会

- 事業方針と運営の基本的事項を決定 ※状況に応じ、幅広いメンバーが参加するアドホックのオンラインセッション等も検討
- 役員（会長・副会長）の選任 ※若年層による議論や意見発信を行う場も検討

## 運営委員会

- 総会日程、分科会の設置・調整・進捗確認
- その他運営事項の決定

## アドバイザリー委員会

年1回程度  
国内の地域課題を含む  
コンソーシアムの運営状況  
等に助言

## グローバルアドバイザリーパネル

都度開催  
海外での取り組みを紹介し、  
日本における活動の方向性  
についてディスカッション

## 分科会

- 会員に分科会メンバーを広く募集
- 効果的な議論推進のため、議論を取りまとめる「座長」、座長を補佐し資料等の集約を中心的に行う「副座長」、集中的に議論を行う「ディスカッションメンバー」等を設定

## オーガナイズングデスク

分科会に対し、グローバルな専門  
的知見に基づくアドバイスを提供し、  
関係者の意見収集を踏まえた多  
様な目線感で民間の議論を喚起

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

## 事務局

- 国が支援を行いつつ、各機能を委託  
(会議運営、イベント運営、ホームページ作成等)

## アドバイザー委員会

※敬称略・五十音順

- 国内の有識者を中心とし、地域課題を含むコンソーシアムの運営状況等に助言を行う。年1回以上程度の開催を想定

委員長：安間 匡明 PwCサステナビリティ合同会社執行役員常務

江夏 あかね 野村資本市場研究所 野村サステナビリティ研究センター長

小城 武彦 九州大学 ビジネス・スクール教授

景山 綾子 前国際連合開発計画(UNDP) サステナブル・ファイナンス・ハブ シニアエキスパート

古田 秘馬 株式会社umari代表

山本 晃久 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士 パートナー

## グローバルアドバイザーパネル

- グローバルな実務動向について知見を得つつ、本邦における活動の方向性について幅広い議論を行う。海外の機関等を都度若干名程度アドホックで招聘(オンラインを含む)し、本邦関係者と議論を行う。

パネルに招聘する団体等の例：国際機関・ネットワーク、海外有識者・実務担当者等

グローバルアドバイザーパネル企画座長 (Co-Chairs, Global Advisory Panel Planning Committee)

- ・ UntroD Capital Japan株式会社 藤井 昭剛 ヴィルヘルム氏
- ・ GLIN Impact Capital 中村 将人氏

## オーガナイズングデスク

GSG Impact JAPAN

- 分科会に対し、国際的・専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線で議論を喚起

## 事務局 業務委託先

EY 新日本有限責任監査法人

- 分科会を含むコンソーシアム全体について、会議運営、イベント運営、ホームページ作成等を担う